人口問題研究（J. of Population Problems）59－3（2003. 9）pp. 17～42

資　　料

第12回出生動向基本調査
結婚と出産に関する全国調査
—独身者調査の結果概要—

高橋重郷・金子隆一・釜野さおり・大石亜希子・
佐々井司・池ノ上正子・三田房美・岩澤美帆・守泉理恵

Ⅰ．調査の概要

1.　調査の目的と沿革

国立社会保障・人口問題研究所は2002（平成14）年6月，第12回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）を実施した．この調査は他の公的統計では把握することのできない結婚ならびに夫婦の出生力に関する実態と背景を調査し，関連諸施策ならびに将来人口推計に必要な基礎資料を得ることを目的としている．本調査は，戦前の1940（昭和15）年に第1回，ついで戦後の1952（昭和27）年に第2回が行われて以降，5年ごとに「出産力調査」の名称で実施されてきたが，第10回調査（1992年）以降名称を「出生動向基本調査」に変更して今回に至っている．第8回調査（1982年）からは夫婦を対象とする夫婦調査に加えて，独身者を対象とする独身者調査を同時実施しており，したがって今回の調査は独身者調査としては5回目に当たる．本報告はその第12回調査の独身者調査についてのものである．

2.　調査手続きと調査票回収状況

本調査は，全国の年齢18歳以上50歳未満の独身者を対象とした標本調査であり，平成14年6月1日現在の事実について調べたものである．調査対象地域は，平成14年「国民生活基礎調査」（厚生労働省大臣官房統計情報部実施）の調査地区1,048カ所（平成12年国勢調査区から層化無作為抽出）の中から，系統抽出法によって選ばれた600地区である．したがって，そこに居住する18歳以上50歳未満の全ての独身者が本調査の客体である．

調査方法は配票自計，密封回収方式による．その結果，調査票配布数（調

表Ⅰ－2－1　調査票配布数，有効回収票数ならびに率

調査票の回収状況	
調査客体数	12,866
回収票数	10,888（回収率84.6%）
有効票数	9,686（有効回収率75.3%）

査客体数）12,866票に対して，回収数は10,888票であり，回収率は84.6%であった．ただし，回収票のうち記入状況の悪い1,202票は無効票として集計対象から除外した．したがって，有効票数は9,686票であり，有効回収率は75.3%である．なお，本報告ではそのうち18歳以上35歳未満の未婚男女を中心に集計分析を行った．

表Ⅰ－2－2　男女年齢別未婚者数

年　齢	未婚者数		（参考）第11回調査未婚者数	
	男　性	女　性	男　性	女　性
18～19歳	706　（ 15.1%）	591　（ 15.0%）	621　（ 13.3%）	606　（ 15.3%）
20～24歳	1,405　（ 30.1　）	1,394　（ 35.4　）	1,683　（ 36.0　）	1,754　（ 44.4　）
25～29歳	1,124　（ 24.1　）	1,012　（ 25.7　）	1,149　（ 24.6　）	908　（ 23.0　）
30～34歳	662　（ 14.2　）	497　（ 12.6　）	529　（ 11.3　）	344　（ 8.7　）
小　計	3,897　（ 83.5%）	3,494　（ 88.7%）	3,982　（ 85.2%）	3,612　（ 91.4%）
35～39歳	323　（ 6.9　）	211　（ 5.4　）	287　（ 6.1　）	149　（ 3.8　）
40～44歳	232　（ 5.0　）	136　（ 3.5　）	227　（ 4.9　）	105　（ 2.7　）
45～49歳	213　（ 4.6　）	97　（ 2.5　）	175　（ 3.7　）	88　（ 2.2　）
総　数	4,665　（100.0%）	3,938　（100.0%）	4,671　（100.0%）	3,954　（100.0%）

Ⅱ．結婚という選択―若者たちの結婚離れを探る―

1.　結婚の意欲

1）結婚する意思をもつ未婚者は，9割弱で推移

いずれは結婚しようと考える未婚者の割合は，近年わずかずつ減る傾向にあったが，今回の結果では前回調査（1997年）に引き続き9割弱となっており（表Ⅱ-1-1），男性（総数）や女性の20歳代ではむしろわずかに上昇がみられ（図Ⅱ-1-1），従来の減少傾向に歯止めがかかっている．生涯を独身で過ごすことを志向する未婚者（「一生結婚するつもりはない」）は，今回男女とも5%台にとどまっている．

表Ⅱ－1－1　調査別にみた，未婚者の生涯の結婚意思

【男　性】

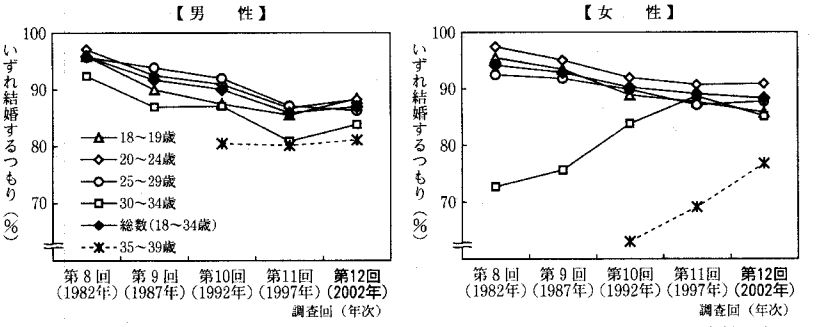
生涯の結婚意思	第8回調査（1982年）	第9回（1987年）	第10回（1992年）	第11回（1997年）	**第12回（2002年）**
いずれ結婚するつもり	95.9%	91.8	90.0	85.9	**87.0**
一生結婚するつもりはない	2.3	4.5	4.9	6.3	**5.4**
不　詳	1.8	3.7	5.1	7.8	**7.7**
総　数（18～34歳）	100.0%	100.0	100.0	100.0	**100.0**
（標　本　数）	(2,732)	(3,299)	(4,215)	(3,982)	**(3,897)**

【女　性】

生涯の結婚意思	第8回調査（1982年）	第9回（1987年）	第10回（1992年）	第11回（1997年）	**第12回（2002年）**
いずれ結婚するつもり	94.2%	92.9	90.2	89.1	**88.3**
一生結婚するつもりはない	4.1	4.6	5.2	4.9	**5.0**
不　詳	1.7	2.5	4.6	6.0	**6.7**
総　数（18～34歳）	100.0%	100.0	100.0	100.0	**100.0**
（標　本　数）	(2,110)	(2,605)	(3,647)	(3,612)	**(3,494)**

設問「自分の一生を通じて考えた場合，あなたの結婚に対するお考えは，次のうちどちらですか．」
　1．いずれ結婚するつもり，2．一生結婚するつもりはない
注：対象は18～34歳未婚者．

図Ⅱ－１－１　調査・年齢階級別にみた，「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚者の割合



注：対象は18～34歳未婚者．参考として第10回調査以降について35～39歳の状況を示した．数値は付表１（巻末）を参照．

２）結婚年齢にこだわらず，理想の相手を待つ未婚者が優勢

結婚する意思のある未婚者のうち，ある程度の年齢までには結婚したいと考える人は近年減少傾向にあり，逆に理想の相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわないと考える人が，男女とも前回調査（1997年）以降過半数になっている．しかし，今回の結果は前回とほぼ同様の構成となっており，未婚者の生涯における結婚に対する考え方の急速な変化は一段落している．

表Ⅱ－１－２　調査別にみた，結婚意思をもつ未婚者の結婚に対する考え方

【男　性】

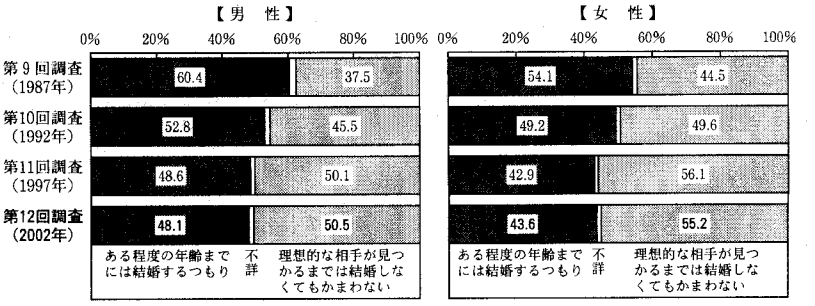
結婚に対する考え方	第９回（1987年）	第10回（1992年）	第11回（1997年）	第12回（2002年）
ある程度の年齢までには結婚するつもり	60.4%	52.8	48.6	48.1
理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない	37.5	45.5	50.1	50.5
不　詳	2.1	1.6	1.3	1.4
総　数（18～34歳）	100.0%	100.0	100.0	100.0
（標　本　数）	(3,027)	(3,795)	(3,420)	(3,389)

【女　性】

結婚に対する考え方	第９回（1987年）	第10回（1992年）	第11回（1997年）	第12回（2002年）
ある程度の年齢までには結婚するつもり	54.1%	49.2	42.9	43.6
理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない	44.5	49.6	56.1	55.2
不　詳	1.3	1.3	1.1	1.3
総　数（18～34歳）	100.0%	100.0	100.0	100.0
（標　本　数）	(2,420)	(3,291)	(3,218)	(3,085)

設問「自分の一生を通じて考えた場合，あなたの結婚に対するお考えは，次のうちどちらですか．」
　１．ある程度の年齢までには結婚するつもり，２．理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない
注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18～34歳未婚者．

図Ⅱ－１－２　調査別にみた，結婚意思をもつ未婚者の結婚に対する考え方



3）結婚を先延ばししようとする意識は継続

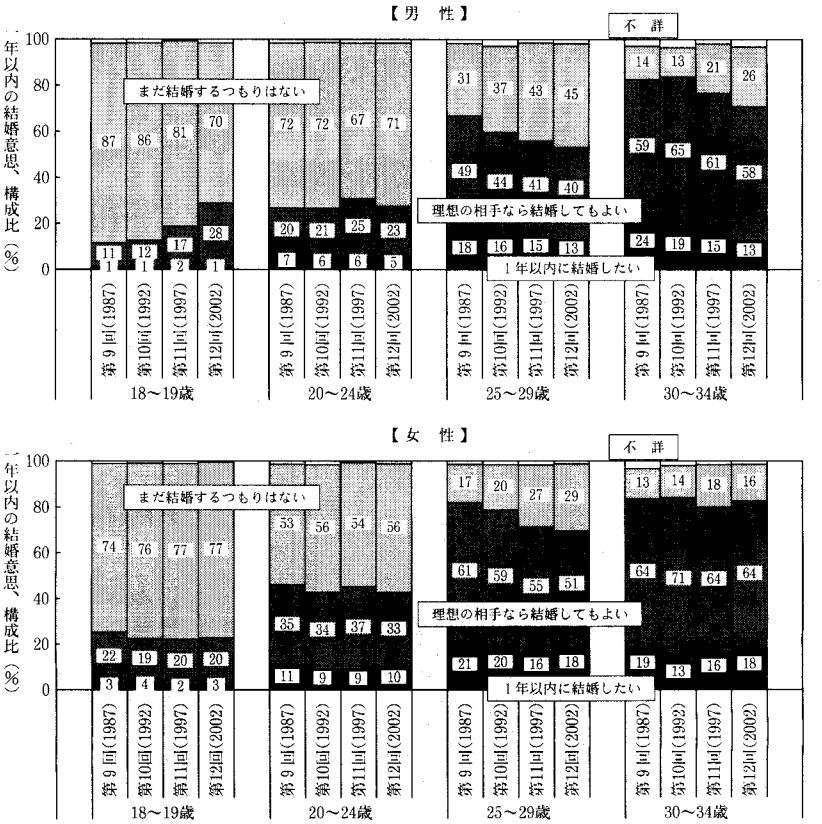
未婚者のうち一年以内の結婚意思について「まだ結婚するつもりはない」と回答した人は，男性20歳代後半から30歳代，女性20歳代後半で増加傾向にあり，結婚を先延ばしする意識は継続して増加している．

表II－1－3　調査・年齢階級別にみた，「まだ結婚するつもりはない」と回答した未婚者の割合

年　齢	【男　性】				【女　性】			
	第9回（1987年）	第10回（1992年）	第11回（1997年）	**第12回（2002年）**	第9回（1987年）	第10回（1992年）	第11回（1997年）	**第12回（2002年）**
18～19歳	86.5%	85.7	80.6	**69.6**	73.5%	76.4	76.8	**76.7**
20～24歳	71.6	72.1	67.4	**70.8**	52.7	55.7	53.9	**56.0**
25～29歳	31.5	37.5	42.7	**45.1**	16.6	19.7	26.9	**29.3**
30～34歳	14.5	12.8	21.5	**25.9**	13.2	14.0	18.4	**16.1**
総数（18～34歳）	57.3%	59.3	56.5	**55.9**	49.5%	50.7	47.7	**46.3**
参考（35～39歳）	－	9.8	13.9	**20.6**	－	12.6	13.6	**16.0**

設問「それでは今から一年以内の結婚に関してはどのようにお考えですか．」
1．一年以内に結婚したい，2．理想的な相手が見つかれば結婚してもよい，3．まだ結婚するつもりはない
注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18～34歳未婚者．「一年以内に結婚したい」「理想的な相手が見つかれば結婚してもよい」と回答した割合については付表2（巻末）を参照．なお，参考として第10回調査以降について35～39歳の状況を示した．

図II－1－3　調査・年齢階級別にみた，一年以内の結婚意思



【解　　説】

未婚者の結婚意欲の変化

若者たちの結婚意欲の変化を，本調査から得られる指標によって調べよう．これまでに見た三つの設問の回答結果を一緒にして結婚意欲の段階順に再構成した（表Ⅱ-1-4）．各段階を意欲の強さにしたがって得点化し平均することで，グループごとに結婚意欲を比較することができる．年齢階級ごとに結婚意欲の年次推移を見ると（図Ⅱ-1-4），第11回調査（1997年）まで低下を続けていた結婚意欲が，今回主要な年齢でほぼ前回並みにとどまっていることがわかる．ただし，30歳代後半の未婚女性では結婚意欲が継続して高まっている．

表Ⅱ－1－4　年齢階級別にみた，結婚への意識段階の構成，および結婚意欲の指標

【男　性】

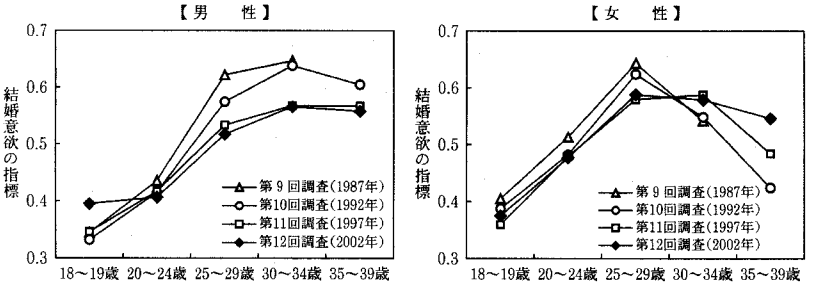
年齢	総数（標本数）	「一年以内に結婚したい」（意欲＝1）	「理想の相手なら（一年以内に）結婚してもよい」		「まだ結婚するつもりはない」		「一生結婚するつもりはない」		結婚意欲の指標	（参考）結婚意欲の指標		
			結婚年齢重視派（＝0.8）	理想相手追求派（＝0.6）	結婚年齢重視派（＝0.4）	理想相手追求派（＝0.2）	（＝0）	不詳		第11回調査	第10回調査	第9回調査
18～19歳	100%（706）	1.1%	11.0	13.2	30.2	30.9	5.0	8.6	0.40	0.35	0.33	0.34
20～24歳	100（1,405）	4.5	9.2	10.7	32.1	30.0	4.7	8.9	0.41	0.42	0.42	0.44
25～29歳	100（1,124）	11.0	15.4	19.2	18.9	19.8	5.3	10.3	0.52	0.53	0.57	0.62
30～34歳	100（662）	10.6	19.3	29.0	9.5	12.1	7.3	12.2	0.57	0.57	0.64	0.65
総数（18～34歳）	100%（3,897）	6.8%	13.0	16.7	24.1	24.2	5.4	9.8	0.46	0.46	0.46	0.49
参考（35～39歳）	100%（323）	9.3%	19.5	32.8	4.3	12.1	9.3	12.7	0.56	0.57	0.61	－

【女　性】

年齢	総数（標本数）	「一年以内に結婚したい」（意欲＝1）	「理想の相手なら（一年以内に）結婚してもよい」		「まだ結婚するつもりはない」		「一生結婚するつもりはない」		結婚意欲の指標	（参考）結婚意欲の指標		
			結婚年齢重視派（＝0.8）	理想相手追求派（＝0.6）	結婚年齢重視派（＝0.4）	理想相手追求派（＝0.2）	（＝0）	不詳		第11回調査	第10回調査	第9回調査
18～19歳	100%（591）	2.4%	6.6	10.5	35.0	29.9	6.1	9.5	0.37	0.36	0.39	0.41
20～24歳	100（1,394）	8.9	14.1	15.8	23.2	27.0	3.9	7.1	0.48	0.48	0.48	0.51
25～29歳	100（1,012）	16.1	16.1	28.8	10.3	15.3	4.2	9.2	0.59	0.58	0.62	0.64
30～34歳	100（497）	15.7	9.7	44.7	2.0	11.7	8.5	7.8	0.58	0.59	0.55	0.54
総数（18～34歳）	100%（3,494）	10.8%	12.8	22.8	18.4	22.0	5.0	8.2	0.51	0.49	0.49	0.51
参考（35～39歳）	100%（211）	8.5%	10.9	42.7	0.9	10.4	9.5	17.1	0.55	0.48	0.42	－

注：結婚意思に関する複数の設問に対する回答から未婚者の意識段階の構成比を年齢階級別に示したもの．また，結婚意欲の指標とは「一生結婚するつもりはない」を0，「1年以内に結婚したい」を1として各段階を得点化し，グループの平均値を算出したもの．グループの結婚意欲の強さを0～1の値として表す．なお，結婚年齢重視派および理想相手追求派とは，それぞれ「ある程度の年齢までには結婚するつもり」「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と回答したグループ．

図Ⅱ－１－４　調査・年齢階級別にみた，結婚意欲の指標



注：結婚意欲の指標については表Ⅱ-1-4脚注参照．参考として第10回調査以降について35～39歳の状況を示した．

2.　結婚の利点・独身の利点

１）「結婚には利点がある」と考える未婚男性が減少傾向

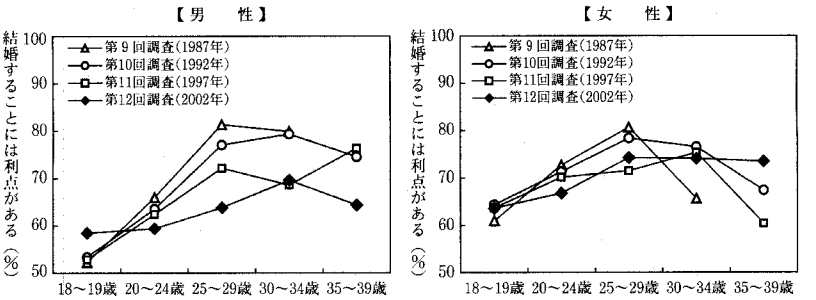
現在結婚することに利点があると感じているのは未婚男性の６割（62.3%），未婚女性の７割（69.4%）であった．逆に男性の1/3（33.1%），女性の1/4（26.3%）は結婚に利点はないと考えている．男女とも利点を感じない人がわずかずつ増えており，とりわけ男性で明瞭である．一方，現在の独身生活に利点があると考える人は男性８割（79.8%），女性９割弱（86.6%）と，結婚に利点を感ずる割合よりかなり多いが，こちらもわずかながら減少傾向にある（以上，表Ⅱ-２-１）．結婚の利点の感じ方は年齢によって異なり，20歳代後半から30歳頃にかけて最も多く意識されるが（図Ⅱ-２-１），それに比べると独身生活の利点の感じ方は年齢による違いがあまりない（図Ⅱ-２-２）．

表Ⅱ－２－１　調査別にみた，未婚者の結婚の利点・独身生活の利点に対する考え

		【男　性】				【女　性】			
		第９回調査（1987年）	第10回（1992年）	第11回（1997年）	第12回（2002年）	第９回調査（1987年）	第10回（1992年）	第11回（1997年）	第12回（2002年）
今のあなたにとって結婚することは	利点があると思う	69.1%	66.7	64.6	**62.3**	70.8%	71.4	69.9	**69.4**
	利点はないと思う	25.4	29.1	30.3	**33.1**	24.7	25.2	25.5	**26.3**
	不　　詳	5.5	4.2	5.1	**4.6**	4.5	3.4	4.6	**4.3**
合　　計		100.0%	100.0	100.0	**100.0**	100.0%	100.0	100.0	**100.0**
今のあなたにとって独身生活は	利点があると思う	83.0%	83.6	82.7	**79.8**	89.7%	89.0	88.5	**86.6**
	利点はないと思う	10.7	11.2	11.6	**14.6**	5.4	7.4	7.2	**8.6**
	不　　詳	6.3	5.2	5.7	**5.6**	4.9	3.6	4.3	**4.8**
合　　計		100.0%	100.0	100.0	**100.0**	100.0%	100.0	100.0	**100.0**
（標　本　数）		(3,299)	(4,215)	(3,982)	**(3,897)**	(2,605)	(3,647)	(3,612)	**(3,494)**

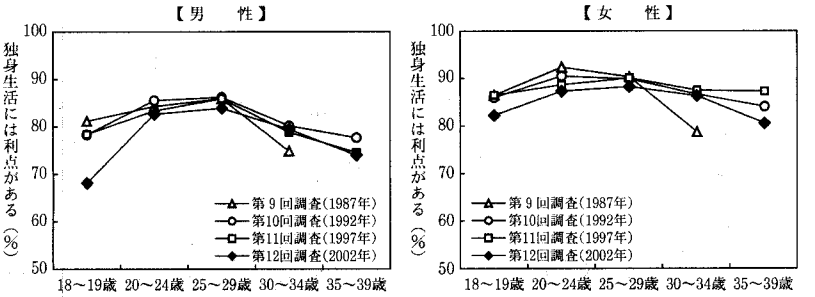
設問「今のあなたにとって，結婚することには何か利点があると思いますか．」「それでは逆に今のあなたにとって，独身生活には結婚生活にはない利点があると思いますか．」
注：対象は18～34歳未婚者．

図Ⅱ－２－１　年齢別にみた，「結婚することは利点がある」と考える未婚者



注：対象は18～34歳未婚者．参考として第10回調査以降について35～39歳の状況を示した．数値は付表３（巻末）を参照．

図Ⅱ－２－２　年齢別にみた，「独身生活は利点がある」と考える未婚者

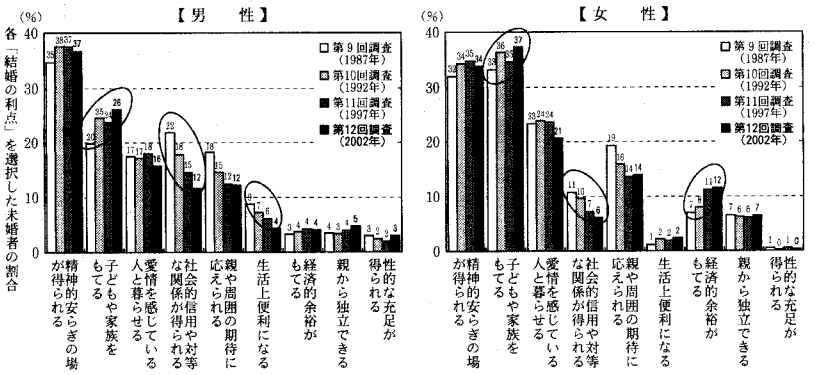


注：対象は18～34歳未婚者．参考として第10回調査以降について35～39歳の状況を示した．数値は付表３（巻末）を参照．

２）結婚の利点は「家族をもてる」が増加，「社会的信用」，「生活の利便」はさらに減少

結婚の利点として男性では「精神的な安らぎの場が得られる」が最も多いが，女性ではこれとともに「自分の子どもや家族をもてる」が同程度に多い．後者は今回男女とも増加していて，女性でははっきりと第一位の項目となった．次いで男女とも「愛情を感じている人と暮らせる」が続き，現在の未婚者の感じる結婚の利点は内面的な事柄が上位を占めている．一方で第９回（1987年）には男性で２位を占めていた「社会的信用を得たり，周囲と対等になれる」は，男女ともに急速に減少している．また，男性では「生活上便利に

図Ⅱ－２－３　調査別にみた，結婚することの利点



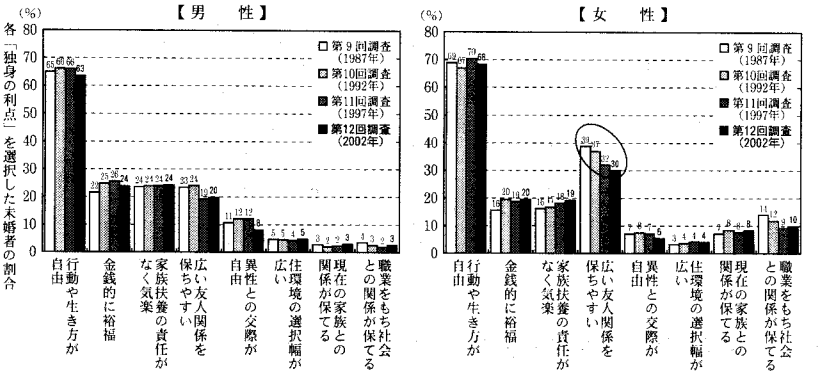
注：18～34歳未婚者のうち何%の者が各項目を主要な結婚の利点（二つまで選択）として考えているかを示す．

なる」も減少を続けている．一方，女性では「経済的余裕がもてる」を結婚の利点とする者がやや増える傾向にある．

3）独身生活の最大の魅力は「行動や生き方が自由」であること

独身生活の利点は，男女とも圧倒的に「行動や生き方が自由」を挙げる人が多い．それ以外では「金銭的に裕福」「家族を養う責任がなく，気楽」「友人などとの広い人間関係が保ちやすい」などが比較的多い．この構図には調査ごとにほとんど変化がない．すなわち現代の未婚者は結婚すると行動や生き方，友人関係などが束縛され，家族扶養の精神的負担が加わると一貫して考えている．ただし，女性で広い友人関係が保てることを独身生活の利点とする人が漸減しており，この点に関する結婚の束縛感は緩んでいると見られる．

図Ⅱ－２－４　調査別にみた，独身生活の利点



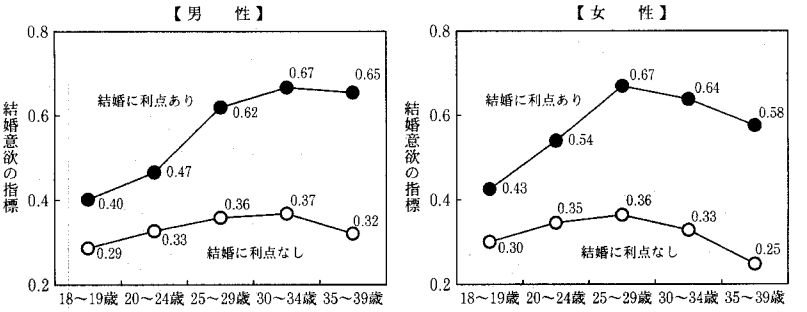
注：18～34歳未婚者のうち何%の者が各項目を主要な独身生活の利点（三つまで選択）として考えているかを示す．

【解　　説】

結婚意欲は結婚の利点の感じ方によって決まる

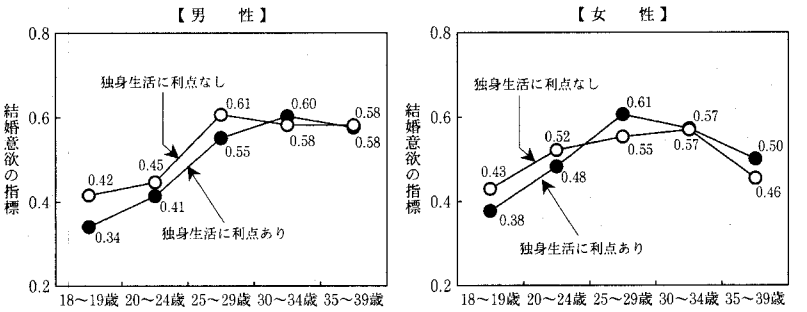
未婚者の結婚意欲は，現在の独身生活の魅力に関わらず，結婚に利点を感じているかどうかによって決まるようだ．調査結果によれば，結婚に利点があると回答したグループでは当然結婚意欲が高く，年齢による変化もはっきりしているのに対し，利点がないと回答したグループでは全年齢を通じて意欲が低いままにとどまっている（図Ⅱ-２-５）．一方で独身生活に利点を感じているかどうかは，20歳代前半までの若い層で結婚意欲にいくぶん影響しているものの差は小さく，また20歳代後半以降ではむしろ逆転が見られる（図Ⅱ-２-６）．こうしたことから，結婚に対する意欲の強さは，現在の独身生活がどれほど魅力的かに関わらず，結婚にどれだけ利点を感じているかによって決まっていると考えられる．

図Ⅱ－２－５　結婚の利点の有無別にみた，結婚意欲の指標の年齢変化



注：結婚意欲の指標については表Ⅱ-1-4脚注参照．対象は第９～12回調査による18～39歳未婚者．

図Ⅱ－２－６　独身生活の利点の有無別にみた，結婚意欲の指標の年齢変化



注：結婚意欲の指標については表Ⅱ-1-4脚注参照．対象は第９～12回調査による18～39歳未婚者．

3.　異性との交際

1）異性との交際は二極化

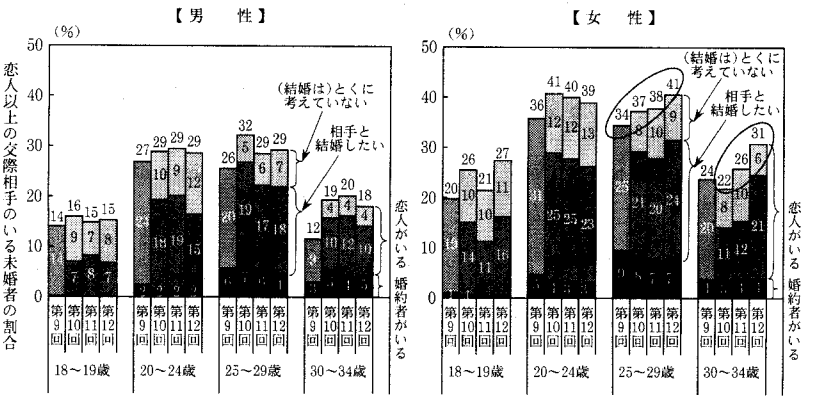
「異性の交際相手をもたない」と回答した未婚男性は52.8%で前回調査（49.8%）より３ポイント増え，半数を超えた．女性では40.3%で，前回調査（41.9%）より1.6ポイント減少したがそれ以前よりは多く，異性との交際は意外に低調なまま推移している（表Ⅱ-３-１）．しかし，逆に恋人以上の親密な交際相手（「恋人」「婚約者」）を持つ女性は25歳以上で継続的に増える傾向にあり（図Ⅱ-３-１），この年代では交際相手がいないか，親密な相手を持つかに二極化する傾向が見られる．

表Ⅱ－３－１調査別にみた，未婚者の異性との交際

異性との交際	【男　性】				【女　性】			
	第９回（1987年）	第10回（1992年）	第11回（1997年）	**第12回（2002年）**	第９回（1987年）	第10回（1992年）	第11回（1997年）	**第12回（2002年）**
婚約者がいる	2.9%	3.2	2.9	**2.7**	4.6%	3.9	3.8	**3.9**
恋人として交際している異性がいる	19.4	23.1	23.3	**22.4**	26.2	31.6	31.6	**33.1**
友人として交際している異性がいる	23.6	19.2	15.3	**11.3**	25.4	19.5	15.9	**12.4**
交際している異性はいない	48.6	47.3	49.8	**52.8**	39.5	38.9	41.9	**40.3**
不　詳	5.5	7.2	8.7	**10.9**	4.3	6.3	6.8	**10.2**
総　数（18～34歳）	100.0%	100.0	100.0	**100.0**	100.0%	100.0	100.0	**100.0**
（標　本　数）	(3,299)	(4,215)	(3,982)	**(3,897)**	(2,605)	(3,647)	(3,612)	**(3,494)**

設問「あなたには現在交際している異性がいますか．」
注：対象は18～34歳未婚者．

図Ⅱ－３－１　調査・年齢階級別にみた，恋人以上の交際相手のいる未婚者の割合



注：18～34歳未婚者における恋人または婚約者を持つ割合．第10～12回調査の恋人の内訳は相手との結婚希望の構成を示す．

2）同棲経験者，20代後半で１割に達する

現在または過去に同棲した経験があると回答した未婚者（18～34歳）は，男性6.7%，女性7.6%であり，近年わずかずつだが増加を示している．とりわけ25～29歳での増加が目立ち，今回調査では男性10.3%，女性10.0%と初めて１割に達した．しかしながら，現在同棲を継続している未婚男女は，最も多い25～29歳でも３%足らずであり，いまだ少数派である．

表Ⅱ－３－２　調査・年齢階級別にみた，同棲経験のある未婚者の割合

年　齢	【男　性】				【女　性】			
	第９回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第９回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)
18～19歳	1.2% (0.5)	0.9 (0.2)	0.6 (0.5)	**1.8 (0.8)**	1.9% (0.8)	1.3 (0.8)	2.6 (1.0)	**3.0 (1.7)**
20～24歳	3.5 (1.0)	4.2 (1.3)	4.5 (2.1)	**6.0 (2.8)**	2.7 (0.8)	3.1 (1.1)	4.4 (2.3)	**7.5 (2.7)**
25～29歳	3.3 (0.7)	6.7 (1.3)	7.1 (1.7)	**10.3 (2.8)**	4.1 (0.0)	4.5 (1.4)	5.3 (1.0)	**10.0 (3.0)**
30～34歳	5.0 (1.5)	7.1 (1.6)	6.0 (1.9)	**6.9 (1.8)**	4.4 (0.6)	6.1 (1.6)	7.6 (1.5)	**8.2 (1.4)**
総数(18～34歳)	3.2% (0.9)	4.5 (1.1)	4.8 (1.7)	**6.7 (2.3)**	2.8% (0.7)	3.1 (1.1)	4.6 (1.7)	**7.6 (2.4)**
(標本数)	(3,299)	(4,215)	(3,982)	**(3,897)**	(2,605)	(3,647)	(3,612)	**(3,494)**
参考(35～39歳)	－ －	11.0 (1.9)	8.0 (1.0)	**9.3 (1.2)**	－ －	6.6 (0.1)	5.4 (0.7)	**5.2 (0.5)**

設問「あなたはこれまでに同棲の経験（特定の異性と結婚の届け出なしで一緒に生活をしたこと）がありますか．」
　１．ない，２．以前はあるが現在はしていない，３．現在している
注：表中の数字は同棲経験を持つ人（選択肢２または３）のパーセンテージ．また（　）の数字はその内で現在同棲している人（選択肢３）のパーセンテージ．

3）未婚者の性経験，男性で増加に頭打ち．一方，女性では上昇が継続

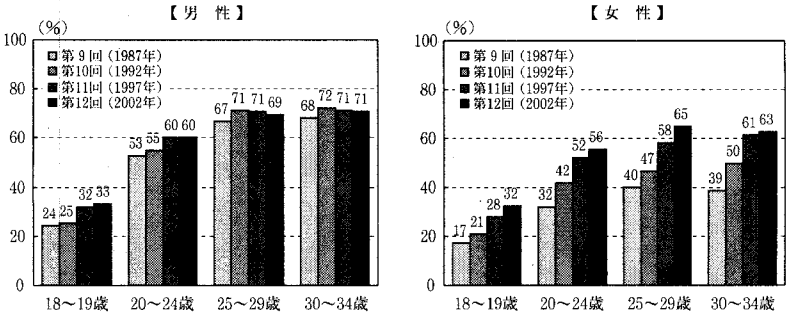
性経験があると回答した未婚者（18～34歳）は，男性59.8%，女性55.4%であり，25歳以上では男性７割，女性６割強となっている．これらは過去いずれも増加を示していたが，男性ではこのところ全年齢で頭打ちの傾向が見られる．他方，女性では全年齢で上昇が継続しており，従来見られた男女の差は消失しつつある．

表II－3－3　調査年齢別にみた，未婚者の性交経験の割合

年　齢	【男　性】				【女　性】			
	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)
18～19歳	24.3%	25.1	31.9	33.3	17.4%	20.7	28.2	32.3
20～24歳	52.7	54.8	60.0	60.1	31.9	42.0	52.0	55.7
25～29歳	66.6	71.3	70.6	69.3	40.0	46.7	58.3	64.8
30～34歳	68.3	72.3	71.3	71.0	38.8	49.8	61.3	62.8
総数（18～34歳）	53.0%	54.9	60.1	59.8	30.2%	38.3	50.5	55.4
（標本数）	(3,299)	(4,215)	(3,982)	(3,897)	(2,605)	(3,647)	(3,612)	(3,494)

設問「あなたはこれまでに異性と性交渉をもったことがありますか.」　1．ある，2．ない

図II－3－2　調査・年齢別にみた，未婚者の性交経験の割合

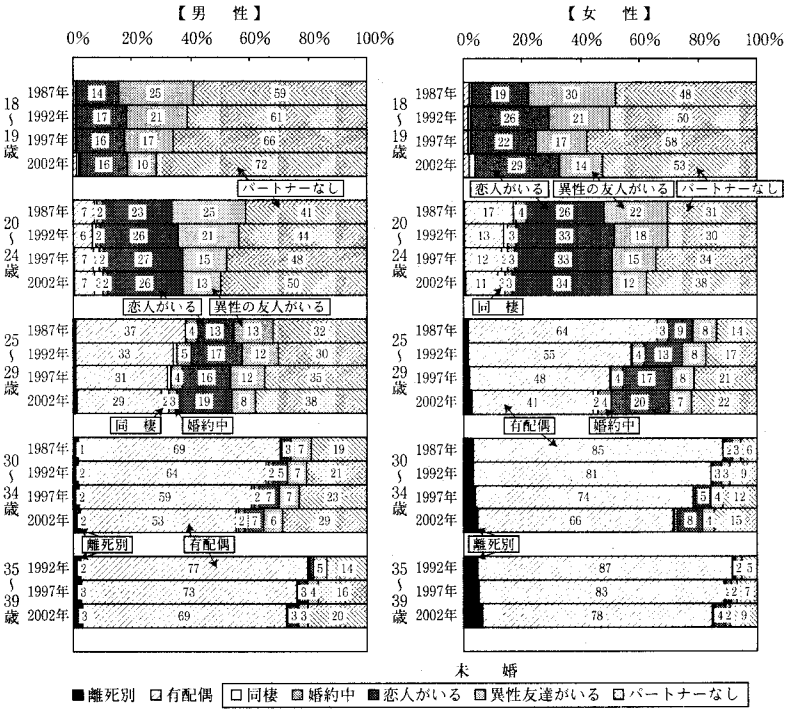


【解　　説】

既婚も含めたパートナーシップ構成の変化

国勢調査から推定される配偶関係の構成と本調査から得られる未婚者の異性交際の状況から，各年次，各年齢階級における異性のパートナーシップの状況を推定した．年齢とともに恋人，友人としてのパートナーシップから，夫，妻としてのパートナーシップに移り変わるようすがわかる．近年未婚率が上昇していることと，未婚者中の交際相手を持たない割合があまり変わらないことから，ほとんどの年齢層で異性のパートナーを持たない男女が増加していると見られる．ただし，20歳代前半までの若い層では恋人以上の親密なパートナーを持つ割合は変わらないか，むしろ増加気味である．

図Ⅱ－３－３　年齢階級別にみた，パートナーシップ構成の変化



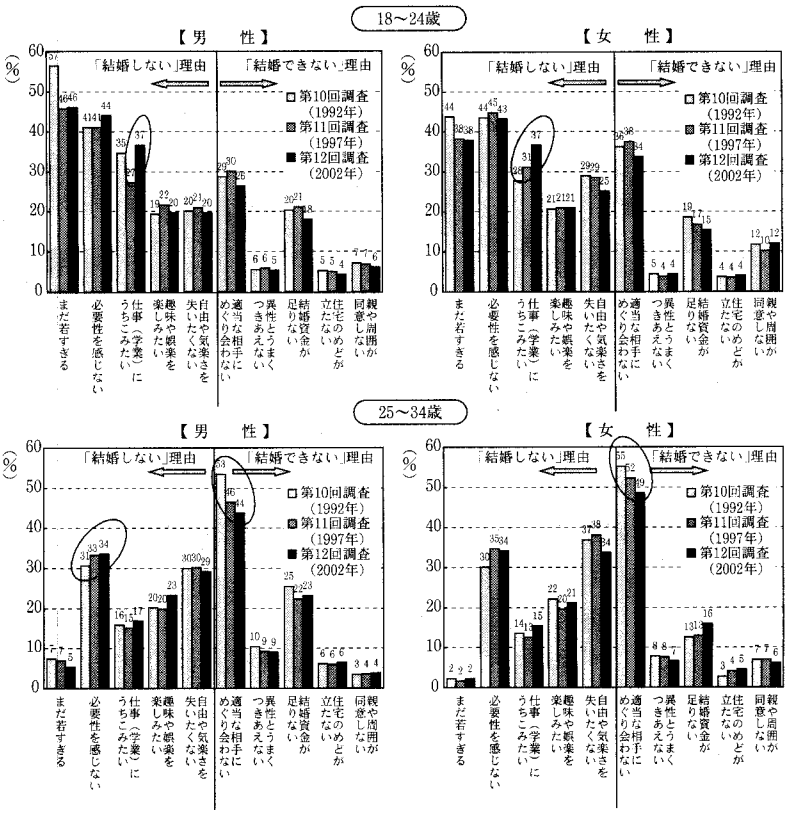
注：国勢調査から推定される本調査各年次の配偶関係（未婚・有配偶・離死別）構成と，本調査から得られる未婚者の交際状況から各年齢層でのパートナーシップの状況を推定したもの．1987年，35～39歳は調査結果なし．図中の数値はパーセンテージ（詳しい数値は付表４（巻末）を参照）．

4.　なぜ結婚しないのか？

「結婚できない」から「結婚しない」へ

未婚者に独身にとどまっている理由をたずねたところ，25歳未満の若い年齢層では「まだ若すぎる」「必要性を感じない」などの結婚の必然性の欠如や「仕事（学業）」や「趣味，娯楽」との競合，さらには「自由や気楽さを失いたくない」などが多く，結婚するための積極的理由の欠如が目立つ．とくに「仕事（学業）」との競合は今回大幅な増加が見られた．一方，25歳以上になると「適当な相手にめぐり会わない」という理由を挙げる人が増えて半数程度となる．ただ，この年齢に至っても「必要性を感じない」「自由や気楽さを失いたくない」を選ぶ人は多く，とくに後者は若い年齢層よりも多く選ばれている．全年齢を通して「適当な相手にめぐり会わない」は減少傾向にあり，代わって「仕事（学業）」との競合や「必要性を感じない」などが増えており，独身にとどまっている理由は「結婚できない」から「結婚しない」に徐々に重心が移りつつある．

図II－4－1　調査・年齢階級別にみた，独身にとどまっている理由



注：未婚者のうち何%の人が各項目を独身にとどまっている理由（三つまで選択）として挙げているかを示す．

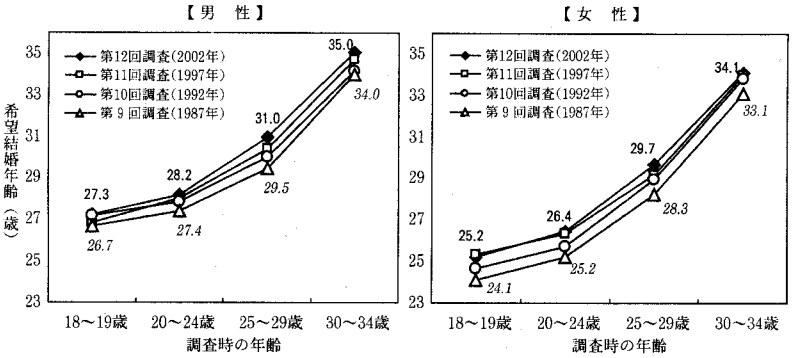
Ⅲ．希望の結婚像―どんな結婚を求めているのか―

1．希望する結婚年齢

1）希望する結婚年齢は男女とも上昇，意識の上でも晩婚化が継続

未婚者が結婚したいと思う年齢は，本人の年齢が上がるとともに高くなるが，同じ年齢層で比較した場合，主な年齢において最近の調査ほどわずかずつ希望結婚年齢が上昇する傾向が見られ，未婚者の意識においても「晩婚化」が続いていると言える．

図Ⅲ－１－１　調査・年齢階級別にみた，希望する結婚年齢の分布

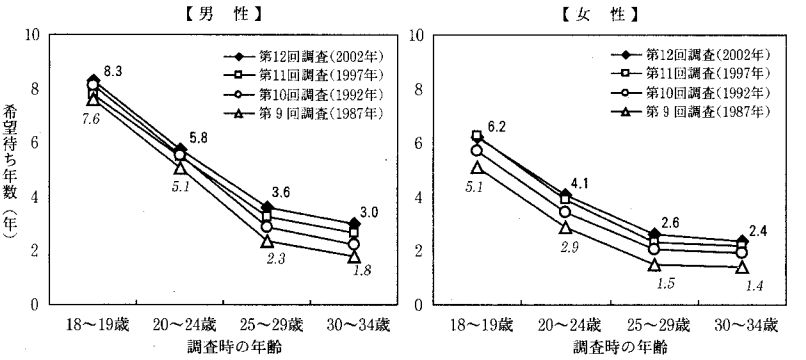


注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた未婚者．図中の数字は第９回調査（斜体）および第12回調査による未婚者の平均希望結婚年齢．18～34歳未婚者の平均希望年齢は，第９回（男性28.4，女性25.6），第10回（男性28.9，女性26.5），第11回（男性29.3，女性27.4），第12回（男性29.8，女性28.1）．

２）現在から希望する結婚年齢までの期間は男女とも延長傾向

調査時点から希望結婚年齢までの年数（結婚までの希望待ち年数）は，本人の年齢が上がるとともに短くなるが，同じ年齢層で比較した場合，男女とも主な年齢で希望待ち年数が長くなっており，ここでも未婚者の間で結婚を先延ばしする意識が継続していることが捉えられている．

図Ⅲ－１－２　調査・年齢階級別にみた，結婚までの希望待ち年数



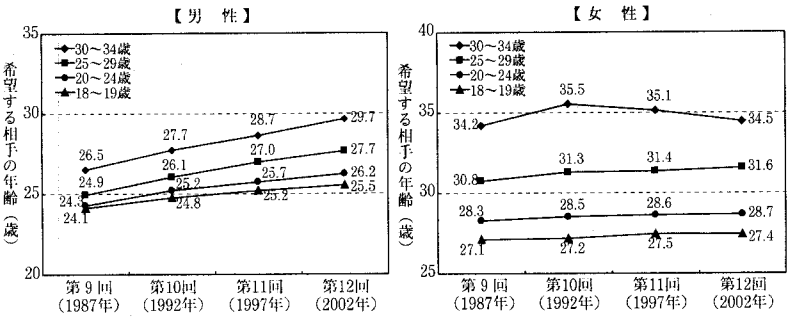
注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた未婚者．希望する結婚年齢までの待ち年数とは，調査時現在の年齢から希望結婚年齢までの年数．図中の数字は第９回調査（斜体）および第12回調査による未婚者の平均待ち年数．

３）結婚相手に希望する年齢は男性で上昇，結婚相手との年齢差は意識の上でも縮小傾向

結婚相手に希望する年齢は本人の年齢が上がるとともに高まるが，同じ年齢層で比較した場合，男性では最近の調査ほど相手に高い年齢を望むようになっている．一方，女性では相手に望む年齢にはほとんど変化がないか，30歳以上ではむしろ若い相手を望むようになっている（図Ⅲ-１-３）．その結果，男女とも希望する年齢差は縮小しており，実際，男性が年上となる結婚希望が減り，同い年の相手を希望する割合が増えている（図Ⅲ-１-

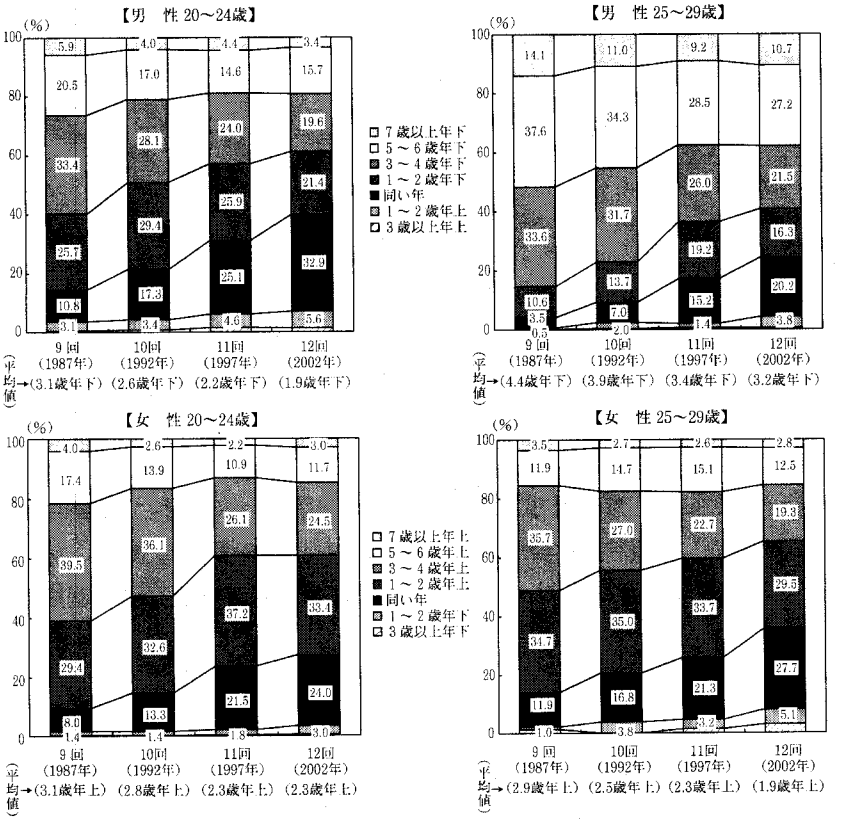
4)．このことは人口動態統計，および本調査－夫婦調査で明らかとなっている男女の結婚年齢差の縮小が，未婚者の希望に沿ったものであることを示している．

図Ⅲ－１－３　調査・年齢階級別にみた，結婚相手に希望する年齢



注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた未婚者．

図Ⅲ－１－４　調査・年齢階級別にみた，希望する結婚相手との年齢差



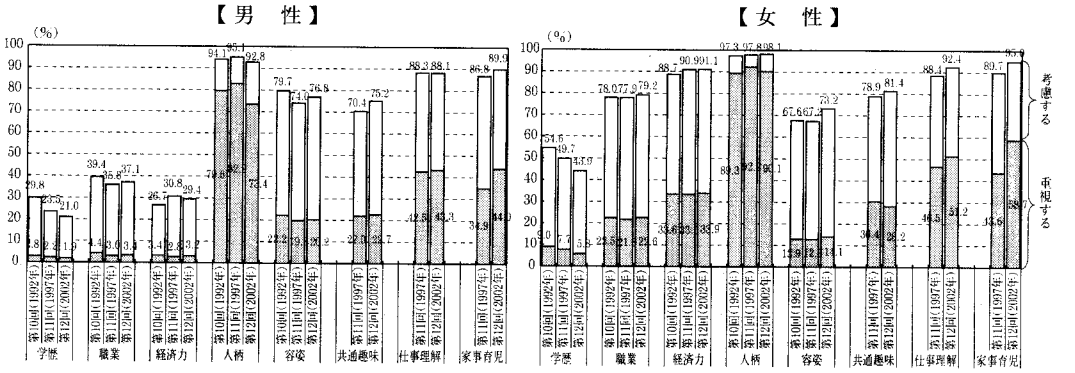
注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた未婚者．希望する結婚相手との年齢差は，対象者が希望する本人の結婚年齢と希望する相手の年齢の差（夫－妻）．（　）内は希望する年齢差の平均値．なお，夫婦調査による実際の夫妻年齢差（調査時点より過去５年間に結婚した夫婦）は，第９回調査（1987年）2.9歳，第10回（1992年）2.6歳，第11回（1997年）2.4歳，第12回（2002年）1.7歳．

2. 結婚相手の条件

1）相手の「家事・育児への姿勢」「仕事への理解と協力」を重視する女性が増える

結婚相手の条件として重視する項目は，男女とも相手の「人柄」「家事・育児に対する能力や姿勢」「自分の仕事に対する理解と協力」の順となっている．ついで女性では相手の「経済力」「共通の趣味」「職業」，男性では「共通の趣味」「容姿」を重視している．女性では結婚相手の条件として多くの項目を重視ないし考慮しているのに対し，男性では相手の学歴，職業，経済力を重視する人は少なく，考慮する人も4割以下にとどまっている．また，男女とも「学歴」を重視ないし考慮する割合が一貫して低下する一方で，「家事・育児に対する能力や姿勢」を重視する割合が上昇した．また，女性では「仕事に対する理解と協力」を相手の条件として重視する割合も増えている．

図Ⅲ－2－1　調査別にみた，結婚相手の条件（「重視する」および「考慮する」回答割合）

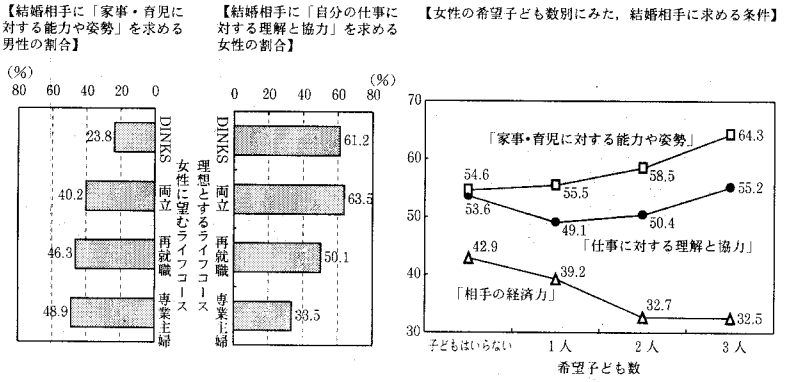


注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18～34歳未婚者．数字は「重視する」と答えた者の割合（グラフ中腹），および「重視する」と「考慮する」と答えた者の合計（グラフ上部）．

2）描くライフコースによって異なる結婚相手の条件

女性に専業主婦を望む男性では結婚相手の条件として「家事・育児に対する能力や姿勢」を重視する割合が高く，仕事と家事・育児の両立を理想とする女性では結婚相手に「仕事に対する理解と協力」を望む割合が高い．また，子どもを多く持ちたい女性ほど相手に「経済力」よりも「家事・育児に対する能力や姿勢」「仕事に対する理解と協力」を求めている．

図Ⅲ－２－２　「家事・育児」「仕事への理解」を重視する割合



注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18～34歳未婚者．「女性に望むライフコース」「理想とするライフコース」については節Ⅲ-3を，「希望子ども数」については節Ⅲ-5を参照．

3.　希望するライフコース

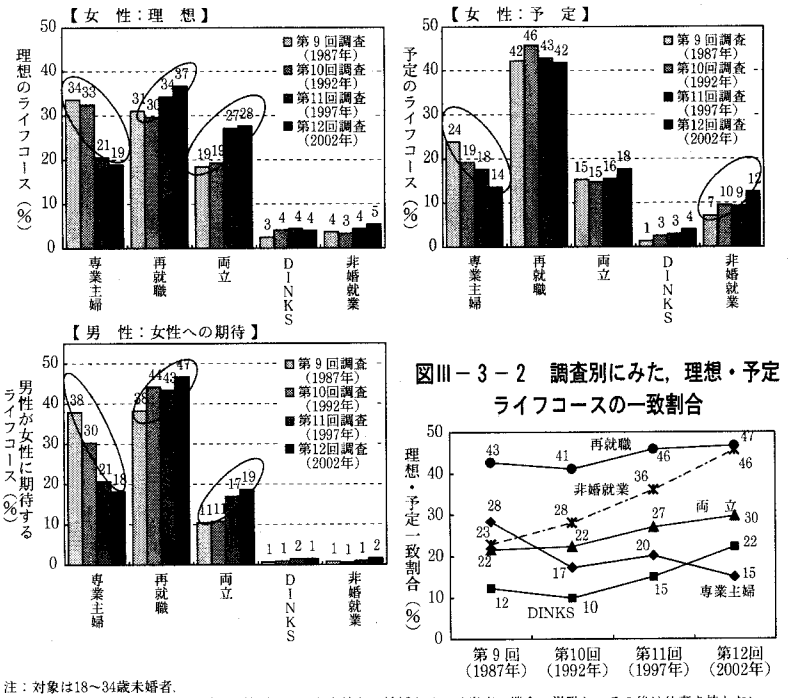
1）未婚女性の専業主婦願望は後退，実際になりそうなコースでも「両立」が逆転

未婚女性が理想とするライフコース（理想のライフコース）と実際になりそうなライフコース（予定のライフコース）では，ともに「専業主婦」コースの割合が減っている．代わって理想コースでは，子育て後の「再就職」コース，仕事と家事・育児の「両立」コースが，予定コースでも「両立」コースがともに増える傾向にある．予定コースでは「非婚就業」コースもやや増えて１割を超えた．また，男性が女性に期待するライフコースでも「専業主婦」が減り，「再就職」「両立」が増えている（図Ⅲ-３-１）．

2）「専業主婦」コース以外では，理想のライフコースを実現できると考える女性が増えている

理想のライフコースを実現できると考えている（理想・予定ライフコースが一致する）未婚女性の割合は，「再就職」コースで最も高く，半数は実現すると考えている．一方，「両立」，「DINKS」，「非婚就業」の各コースでは，実現すると考える女性の割合が増加傾向にあるが，「専業主婦」を理想とする女性では実現すると考える女性は減少している（図Ⅲ-３-２）．

図Ⅲ－３－１　調査別にみた，未婚女性の理想・予定のライフコースおよび男性の女性に期待するライフコース



注：対象は18～34歳未婚者．
ライフコースの説明：「専業主婦」＝結婚し子どもを持ち，結婚あるいは出産の機会に退職し，その後は仕事を持たない
「再 就 職」＝結婚し子どもを持つが，結婚あるいは出産の機会にいったん退職し，子育て後に再び仕事を持つ
「両　　立」＝結婚し子どもを持つが，仕事も一生続ける
「ＤＩＮＫＳ」＝結婚するが子どもは持たず，仕事を一生続ける
「非婚就業」＝結婚せず，仕事を一生続ける

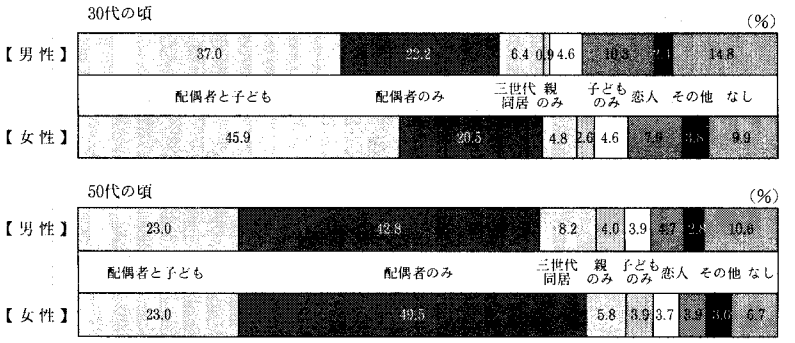
4.　希望する将来の同居スタイル

１）最も多い理想像は30代には夫婦と子どもで暮らし，50代には夫婦のみで暮らすこと

18～34歳の未婚男女に自分が30代および50代の頃に「一緒に暮らしたい人」をたずねたところ，30代では「配偶者」と「子ども」の組み合わせを選んだ人が最も多く（男性37%，女性46%），ついで「配偶者のみ」で（男性22%，女性20%），「三世代同居」は男性６%，女性５%であった．配偶者とは住まず「子ども」とだけ住みたいとする人も男女それぞれ５%いる．一方で「恋人」と住みたい人が男性10%，女性８%で，同居したい相手がいないとする人が男性15%，女性10%いる．

50代については「配偶者のみ」と暮らしたい人が増大し（男性43%，女性50%），ついで「配偶者と子ども」（男女とも23%），「三世代同居」（男性８%，女性６%）の順となっている．

図Ⅲ－4－1　30代，50代に一緒に暮らしたい人

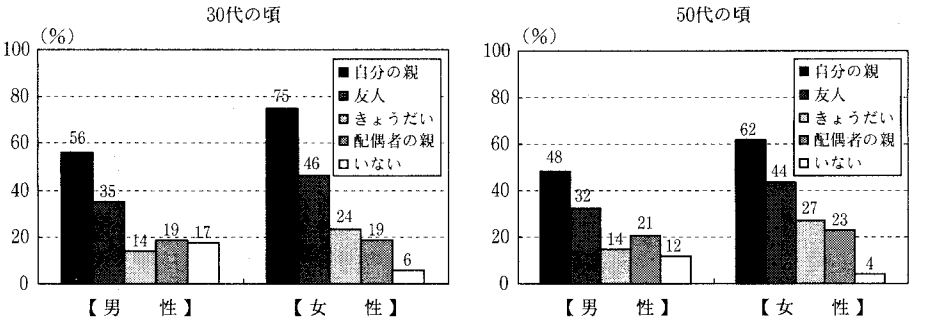


注：対象は18～34歳未婚者．「三世代同居」とは夫婦，子ども，夫婦の親が同居することを指す（本調査結果では30代について男性88%，女性68%，50代について男性84%，女性64%が「親」として「自分の親」とのみ同居することを想定している）．

2）自分の親とは近くに住みたい

自分の親とは同居でなく，近くに住みたいと考える人が多い．30代で「配偶者のみ」または「配偶者と子ども」と一緒に暮らしたいと考えるグループの「近くに住みたい人」は，「自分の親」が男性で半数強（56%），女性では3/4（75%）でトップ，ついで「友人」（男性35%，女性46%）となっている．「配偶者の親」と近くに住みたいと思う人は男女とも19%で，女性では「きょうだい」の方が多い（24%）．50代の暮らしでも30代と概ね同様であるが，自分の親と近くに住みたい人は若干少ない．

図Ⅲ－4－2　30代，50代に近くに住みたい人「配偶者」または「配偶者と子ども」との同居を望むグループ



注：対象は18～34歳未婚者．

5. 希望子ども数

1）未婚男女の希望子ども数は減少傾向，しかし結婚意思のない女性の1/3は子どもを望む

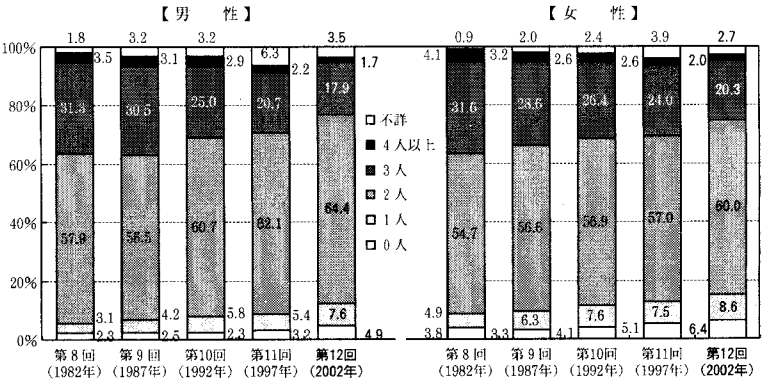
「いずれ結婚するつもり」の未婚者が希望する子ども数は，男女とも「2人」が約6割を占めて最も多く，3人以上を希望する人は減っている（表Ⅲ-5-1，図Ⅲ-5-1）．その結果，平均希望子ども数は急速に減少しており，今回調査では男性2.05，女性2.03と，夫婦調査による夫婦の予定子ども数（2.13）を大きく下回った（図Ⅲ-5-2）．また，今回「一生結婚するつもりはない」と答えた未婚者にも希望子ども数をたずねたところ，男性の30.6%，女性の35.3%が，子どもを（1人以上）持つことを望んでいることがわかった（表Ⅲ-5-1）．

表Ⅲ－5－1　年齢・生涯の結婚意思別にみた，希望子ども数分布および平均値

結婚意思・年齢	総数（標本数）	希望子ども数 0人	1人	2人	3人	4人以上	不詳	平均希望子ども数
【男　性】								
いずれ結婚するつもり								
18～19歳	100%（624）	3.8%	5.0	61.1	23.6	2.7	3.8	2.18人
20～24歳	100（1,240）	4.6	7.7	65.7	18.1	1.6	2.3	2.05
25～29歳	100（970）	6.0	7.7	66.1	14.9	1.8	3.5	1.99
30～34歳	100（555）	4.7	10.3	62.2	16.2	0.9	5.8	1.98
総　数	100（3,389）	4.9	7.6	64.4	17.9	1.7	3.5	2.05
一生結婚するつもりはない				30.6%				
総　数	100（209）	64.6	10.0	13.4	5.3	1.9	4.8	0.65
【女　性】								
いずれ結婚するつもり								
18～19歳	100%（507）	5.1%	6.7	60.7	22.1	3.2	2.2	2.13人
20～24歳	100（1,267）	5.4	7.8	59.0	23.2	2.0	2.6	2.09
25～29歳	100（888）	7.1	8.7	62.8	17.1	1.7	2.6	1.98
30～34歳	100（423）	9.2	13.0	56.3	16.3	1.2	4.0	1.87
総　数	100（3,085）	6.4	8.6	60.0	20.3	2.0	2.7	2.03
一生結婚するつもりはない				35.3%				
総　数	100（176）	61.4	9.1	19.9	5.7	0.6	3.4	0.71

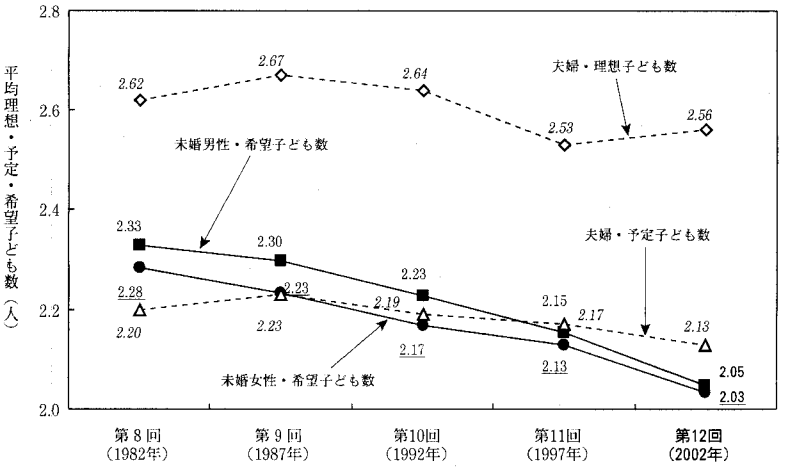
注：18～34歳の未婚男女について．平均希望子ども数は5人以上を5として算出．

図Ⅲ－5－1　調査別にみた，希望子ども数の分布



注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18～34歳未婚者．

図Ⅲ－５－２　調査別にみた，未婚者の平均希望子ども数と夫婦の平均理想・予定子ども数

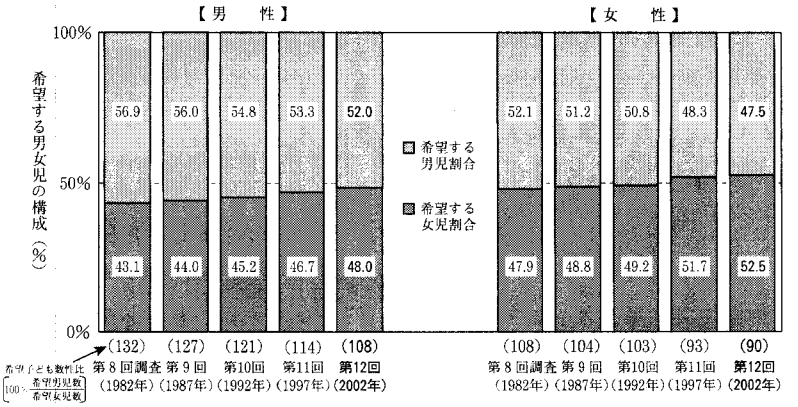


注：夫婦の理想・予定子ども数（斜体）は第12回調査（夫婦調査）の結果より．

２）女の子を多く望む傾向が続いている

未婚者の希望する子どもの性別では，男女ともに女児を多く望む傾向が強まっている．男性ではいまだ男児の希望が女児を上回っているがその差はわずかであり，女性では前回調査以降女児の希望が男児を上回り，さらに増えている．

図Ⅲ－５－３　調査別にみた，希望男女児数の総和の構成



注：希望子ども数が１人以上の未婚者男女（18～34歳）によって回答された希望する男女児組み合せの総男女児数の構成を示す．これは仮に対象者の希望通りに子どもが生まれたとしたときの全出生児の男女構成を表す．グラフ下（　）内はその性比（希望女児数100に対する希望男児数）．

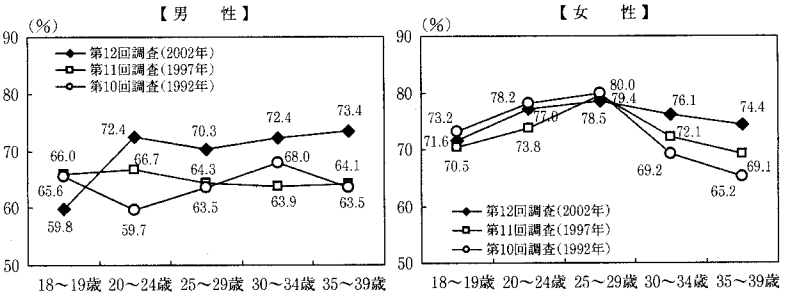
Ⅳ．未婚者の生活と意識

1．親との同別居

1）親と同居する未婚男性が大幅に増加

未婚者の親との同居状況をみると，男性では20歳以上のすべての年齢層で親との同居率が上昇している．女性では従来，25～29歳をピークとしてそれ以上の年齢層では同居率が低下する傾向にあったが，今回の結果では30歳を過ぎても同居率は高止まりを示しており，高原型のパターンに移行しつつある（図Ⅳ-1-1）．

図Ⅳ－1－1　調査・年齢階級別にみた，親と同居する者の割合

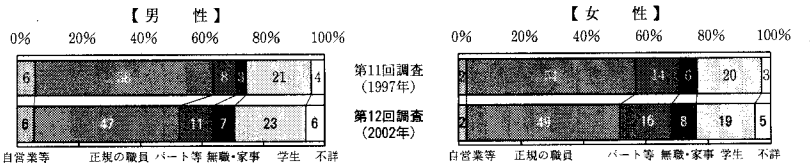


注：父母のどちらかと同居していれば「同居」とした．

2）フリーターの増加が親との同居率を押し上げている

過去5年間について未婚者の従業上の地位の変化をみると，男女ともに「正規の職員」が減少する一方で，フリーター（「パート・アルバイト」「無職・家事」）が増加している（図Ⅳ-1-2）．このグループでは親と同居する傾向が強く，また「パート・アルバイト」に従事する人の同居率は近年高まっている．男性では，正規就業者における親との同居率の上昇も顕著である（表Ⅳ-1-1）．

図Ⅳ－1－2　調査別にみた，未婚者の従業上の地位



表Ⅳ－1－1　調査・従業上の地位別にみた，親と同居する未婚者の割合

調査（調査年次）	合　計	正規の職員	パート・アルバイト	自営業等	無職・家事	学　生	不　詳
【男　性】							
第11回（1997年）	65.5%	64.8%	75.3	81.8	86.9	53.3	78.1
第12回（2002年）	**69.5**	**72.1**	**80.1**	**79.1**	**85.0**	**50.9**	**74.5**
【女　性】							
第11回（1997年）	74.5	78.5	77.1	78.6	86.4	58.9	68.8
第12回（2002年）	**76.4**	**78.6**	**83.0**	**73.3**	**85.2**	**63.9**	**67.6**

注：対象は18～34歳未婚者．

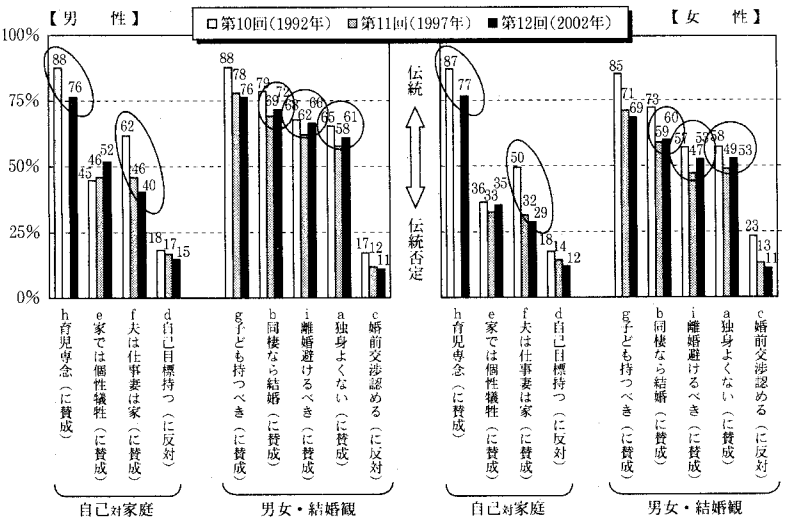
2. 結婚・家族に関する意識

1）家庭内の役割にとどまらない女性の生き方に支持，しかしシングルライフへの評価にゆらぎ

以下に示す結婚や家族に関する考え方について賛否をたずねた．男女を比較すると，全般に女性の方が伝統的な考えに否定的である．とくに「夫は仕事，妻は家庭」といった性役割や，結婚後の個性の尊重，離婚や同棲に対する考え方で大きな男女差が見られる．過去の調査を比較すると「夫は仕事，妻は家庭」「子どもが小さいうちは母は育児専念」などに対する賛成が大きく減少しており，結婚しても女性が家庭内の役割にとどまらないことを支持する傾向が進展している．一方「生涯独身はよくない」「離婚はすべきでない」「同棲するなら結婚」と考える人は前回調査までの傾向から一転して増加を示しており，独身として生きること（シングルライフ）に対する未婚者の評価にゆらぎが見られる．

結婚・家族に関する考え方
a．生涯を独身で過ごすというのは，望ましい生き方ではない
b．男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである
c．結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉をもってかまわない
d．結婚しても，人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである
e．結婚したら，家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ
f．結婚後は，夫は外で働き，妻は家庭を守るべきだ
g．結婚したら，子どもは持つべきだ
h．少なくとも子どもが小さいうちは，母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい
i．いったん結婚したら，性格の不一致くらいで別れるべきではない

図Ⅳ－２－１　調査別にみた，結婚・家族に関する意識（伝統方向への回答割合）

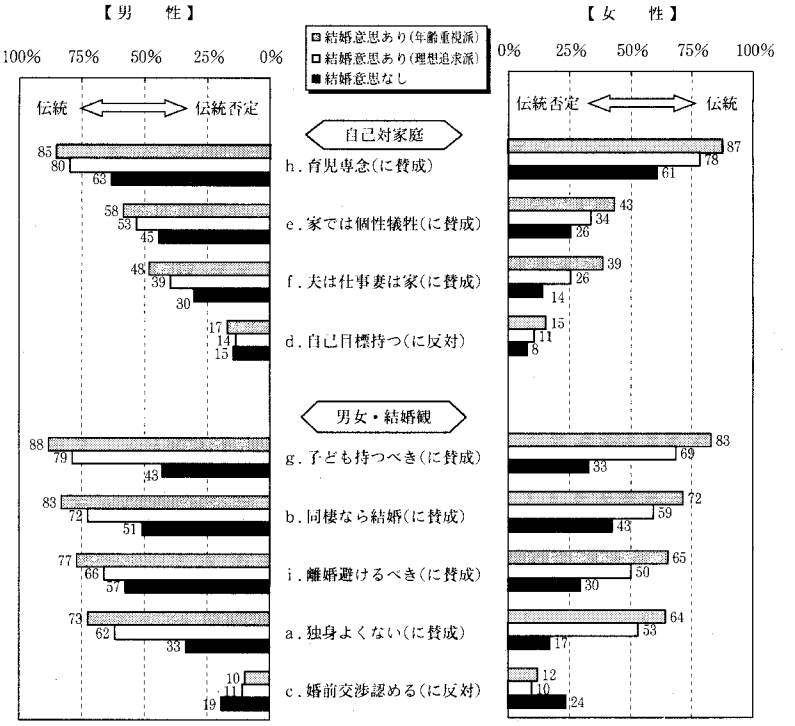


注：対象は18歳～34歳の未婚者．「賛成」は「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」を合計した回答割合．「反対」についても同様．図では，伝統肯定的な考えについては「賛成」の割合，伝統否定的な考えについては「反対」の割合をそれぞれ採用し，伝統方向への回答割合が示されるよう描いている．詳しい数値は付表５（巻末）参照．

2）「理想の相手追求派」は「結婚年齢重視派」より伝統的な考えに否定的

未婚者の結婚・家族に関する意識を，生涯の結婚意思の別に比較すると，婚前性交渉の容認を除いて，結婚意思がない人は意思がある人に比べて伝統的な考えに否定的であることがわかった．結婚意思がある場合でも，「ある程度の年齢までには結婚するつもり」（結婚年齢重視派）と「理想の相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」（理想相手追求派）とでは，理想追求派の方が年齢重視派よりも総じて伝統的な結婚観，家族観に対して否定的であった．

図Ⅳ－２－２　結婚の意思・態度別にみた，結婚・家族に関する意識（伝統方向への回答割合）



注：対象は18歳～34歳の未婚者．図の表し方（伝統方向）については図Ⅳ-2-1を参照．「年齢重視派」とは「ある程度の年齢までには結婚するつもり」と回答したグループ．また「理想相手追求派」とは「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と回答したグループ．これらの構成については，節Ⅱ-1，および表Ⅱ-1-4を参照．

【付　表】

付表１　調査・年齢階級別にみた，「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚者の割合

年　　齢	【男　性】					【女　性】				
	第８回調査（1982年）	第９回（1987年）	第10回（1992年）	第11回（1997年）	**第12回（2002年）**	第８回調査（1982年）	第９回（1987年）	第10回（1992年）	第11回（1997年）	**第12回（2002年）**
18～19歳	96.0%	90.0	87.5	85.5	**88.4**	95.5%	93.5	88.8	87.6	**85.8**
20～24歳	97.1	92.6	90.9	86.7	**88.3**	97.5	95.1	92.0	90.7	**90.9**
25～29歳	95.8	93.9	92.0	87.1	**86.3**	92.5	91.8	89.9	87.1	**87.7**
30～34歳	92.4	86.9	87.0	80.9	**83.8**	72.7	75.6	83.8	88.7	**85.1**
総数（18～34歳）	95.9%	91.8	90.0	85.9	**87.0**	94.2%	92.9	90.2	89.1	**88.3**
参考（35～39歳）	－	－	80.5	80.1	**81.1**	－	－	63.0	69.1	**76.8**

設問「自分の一生を通じて考えた場合，あなたの結婚に対するお考えは，次のうちのどちらですか．」　1．いずれ結婚するつもり，2．一生結婚するつもりはない

対象：18～34歳未婚者．参考として第10回調査以降について35～39歳の状況を示した．

付表２　調査・年齢階級別にみた，一年以内の結婚意思

１年以内の結婚意思　年　　齢	【男　性】				【女　性】			
	第９回（1987年）	第10回（1992年）	第11回（1997年）	**第12回（2002年）**	第９回（1987年）	第10回（1992年）	第11回（1997年）	**第12回（2002年）**
１年以内に結婚したい								
18～19歳	1.1%	1.2	1.5	**1.3**	3.0%	3.7	2.1	**2.8**
20～24歳	7.1	6.0	5.9	**5.1**	10.6	9.0	8.8	**9.8**
25～29歳	18.0	15.8	14.9	**12.8**	21.3	19.9	16.3	**18.4**
30～34歳	24.0	18.8	15.4	**12.6**	19.0	12.6	16.1	**18.4**
総数（18～34歳）	10.8%	9.0	9.0	**7.8**	11.0%	10.2	10.2	**12.3**
参考（35～39歳）	－	19.9	13.9	**11.5**	－	13.8	17.5	**11.1**
理想の相手ならしてもよい								
18～19歳	10.5%	11.5	17.1	**27.6**	22.3%	18.8	20.0	**19.9**
20～24歳	19.7	20.6	25.0	**22.5**	35.3	33.7	36.5	**32.9**
25～29歳	48.8	43.8	41.0	**40.4**	60.7	58.7	55.0	**51.1**
30～34歳	58.7	64.9	61.2	**58.2**	64.5	71.5	63.9	**64.1**
総数（18～34歳）	30.1%	29.6	33.0	**34.4**	38.0%	37.6	40.9	**40.3**
参考（35～39歳）	－	66.4	69.6	**64.9**	－	69.0	68.0	**71.0**

設問「それでは今から一年以内の結婚に関してはどのようにお考えですか．」　1．一年以内に結婚したい，2．理想的な相手が見つかれば結婚してもよい，3．まだ結婚するつもりはない．

注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18～34歳未婚者．参考として第10回調査以降について35～39歳の状況を示した．

付表３　調査・年齢階級別にみた，結婚および独身生活に「利点がある」と回答した未婚者の割合

年　　齢	【男　性】				【女　性】			
	第９回（1987年）	第10回（1992年）	第11回（1997年）	**第12回（2002年）**	第９回（1987年）	第10回（1992年）	第11回（1997年）	**第12回（2002年）**
結婚することには利点がある								
18～19歳	52.2%	53.4	52.8	**58.5**	61.0%	64.4	63.7	**63.6**
20～24歳	66.0	63.6	62.4	**59.4**	72.7	71.3	70.1	**66.8**
25～29歳	81.3	77.0	72.1	**63.9**	80.6	78.3	71.5	**74.2**
30～34歳	79.9	79.4	68.6	**69.6**	65.6	76.5	75.3	**74.0**
総数（18～34歳）	69.1%	66.7	64.6	**62.3**	70.8%	71.4	69.9	**69.4**
参考（35～39歳）	－	74.5	76.3	**64.4**	－	67.4	60.4	**73.5**
独身生活には利点がある								
18～19歳	81.2%	78.3	78.4	**68.1**	86.5%	86.0	86.5	**82.2**
20～24歳	84.3	85.5	83.4	**82.6**	92.4	90.5	88.7	**87.3**
25～29歳	85.9	86.2	85.9	**83.9**	90.3	89.9	90.1	**88.2**
30～34歳	74.9	80.2	78.8	**79.5**	78.8	86.6	87.5	**86.3**
総数（18～34歳）	83.0%	83.6	82.7	**79.8**	89.7%	89.0	88.5	**86.6**
参考（35～39歳）	－	77.7	74.6	**74.0**	－	84.1	87.2	**80.6**

設問：「今のあなたにとって，結婚することは何か利点があると思いますか．」1．利点があると思う，2．利点はないと思う，「それでは逆に今のあなたにとって，独身生活には結婚生活にはない利点があると思いますか。」1．利点があると思う，2．利点はないと思う．

注：対象は18～34歳未婚者．参考として第10回調査以降について35～39歳の状況を示した．

付表4　調査・年齢階級別にみた，パートナーシップ構成比（推定値）

		【男　性】								【女　性】							
		総数	離死別	有配偶	同棲	婚約中	恋人がいる	異性友達がいる	パートナーなし	総数	離死別	有配偶	同棲	婚約中	恋人がいる	異性友達がいる	パートナーなし
18～19歳	1987年	100%	0.0%	0.6	0.5	0.2	14.2	25.5	59.0	100%	0.0%	1.9	0.8	0.6	18.8	29.7	48.2
	1992年	100	0.0	0.6	0.3	0.1	17.3	20.8	61.0	100	0.0	1.5	0.8	0.6	26.0	20.8	50.2
	1997年	100	0.0	0.7	0.5	0.0	16.1	16.7	65.9	100	0.1	1.5	1.0	0.2	21.8	17.3	58.0
	2002年	**100**	**0.1**	**1.1**	**0.9**	**0.2**	**16.4**	**9.8**	**71.5**	**100**	**0.1**	**1.9**	**1.9**	**0.2**	**28.8**	**14.4**	**52.6**
20～24歳	1987年	100	0.1	7.0	0.9	2.1	23.3	25.3	41.2	100	0.4	16.5	0.7	3.9	26.2	21.6	30.5
	1992年	100	0.2	6.4	1.3	1.5	26.5	20.6	43.6	100	0.5	13.3	1.0	3.2	33.3	18.4	30.2
	1997年	100	0.2	6.6	2.2	1.5	26.9	15.0	47.6	100	0.6	12.2	2.1	2.7	32.9	15.0	34.5
	2002年	**100**	**0.3**	**7.0**	**2.9**	**1.5**	**25.5**	**13.1**	**49.7**	**100**	**0.8**	**10.9**	**2.6**	**2.5**	**33.7**	**12.0**	**37.6**
25～29歳	1987年	100	0.6	37.3	0.5	3.6	12.9	13.2	32.0	100	1.7	64.4	0.0	3.4	8.8	8.0	13.7
	1992年	100	0.7	33.5	0.9	4.9	17.4	12.4	30.3	100	1.8	55.2	0.6	3.8	13.0	8.3	17.3
	1997年	100	0.9	31.1	1.3	3.9	16.3	11.8	34.8	100	2.1	47.7	0.5	3.8	16.5	7.9	21.3
	2002年	**100**	**1.1**	**28.9**	**2.3**	**3.2**	**18.7**	**7.7**	**38.2**	**100**	**2.6**	**41.4**	**1.9**	**4.2**	**20.1**	**7.4**	**22.4**
30～34歳	1987年	100	1.5	68.8	0.5	0.9	2.6	6.7	19.1	100	3.3	85.1	0.1	0.5	2.5	2.8	5.8
	1992年	100	1.6	64.0	0.6	2.0	4.8	6.5	20.5	100	3.4	80.8	0.3	0.5	2.9	3.0	9.1
	1997年	100	1.9	58.8	0.8	1.6	6.9	6.9	23.0	100	3.9	74.0	0.3	0.7	5.1	4.0	11.9
	2002年	**100**	**2.2**	**53.0**	**0.9**	**2.0**	**6.7**	**6.4**	**28.7**	**100**	**4.7**	**66.4**	**0.5**	**1.2**	**8.4**	**4.2**	**14.6**
35～39歳	1992年	100	2.5	77.2	0.4	0.4	1.3	4.6	13.6	100	5.0	86.6	0.1	0.1	1.1	1.9	5.2
	1997年	100	2.8	73.3	0.3	0.7	2.5	3.9	16.5	100	5.4	83.2	0.1	0.3	2.2	1.7	7.0
	2002年	**100**	**3.4**	**69.2**	**0.4**	**0.5**	**3.2**	**2.9**	**20.4**	**100**	**6.6**	**78.2**	**0.1**	**0.4**	**3.6**	**1.7**	**9.3**

注：国勢調査から推定される配偶関係の構成と，本調査から得られる未婚者の異性交際の状況から年齢階層別に異性とのパートナーシップの状況を推定．1987年，35～39歳は調査結果なし．

付表5　調査・男女別にみた，結婚・家族に関する意識

結婚・家族に関する意識	調　査	男　性			女　性		
		賛成	反対	不詳	賛成	反対	不詳
a．生涯を独身ですごすというのは，望ましい生き方ではない	第10回（1992年）	65.3%	29.1	5.6	57.6	38.4	4.0
	第11回（1997年）	57.7	36.0	6.2	49.1	45.7	5.2
	第12回（2002年）	**60.9**	**31.0**	**8.1**	**53.0**	**40.2**	**6.8**
b．男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである	第10回（1992年）	78.5	16.5	5.0	72.6	23.5	3.9
	第11回（1997年）	69.0	24.9	6.0	59.3	35.9	4.8
	第12回（2002年）	**71.6**	**21.0**	**7.4**	**60.3**	**33.6**	**6.1**
c．結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉を持ってかまわない	第10回（1992年）	77.5	17.0	5.5	72.6	23.4	4.0
	第11回（1997年）	81.8	11.7	6.6	81.3	13.2	5.5
	第12回（2002年）	**81.1**	**10.9**	**8.0**	**82.2**	**11.1**	**6.7**
d．結婚しても，人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標をもつべきである	第10回（1992年）	76.4	18.2	5.4	78.3	17.6	4.1
	第11回（1997年）	76.5	16.7	6.8	80.3	14.2	5.5
	第12回（2002年）	**77.3**	**14.7**	**8.1**	**81.3**	**12.1**	**6.7**
e．結婚したら，家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ	第10回（1992年）	44.7	49.4	5.9	36.4	58.9	4.7
	第11回（1997年）	45.9	47.7	6.4	32.6	62.3	5.1
	第12回（2002年）	**51.8**	**40.4**	**7.9**	**35.4**	**58.1**	**6.5**
f．結婚後は，夫は外で働き，妻は家庭を守るべきだ	第10回（1992年）	61.7	32.5	5.8	49.7	45.8	4.5
	第11回（1997年）	45.8	47.8	6.4	31.5	63.5	5.0
	第12回（2002年）	**40.3**	**51.8**	**7.9**	**28.9**	**64.7**	**6.3**
g．結婚したら，子どもは持つべきだ	第10回（1992年）	87.5	6.8	5.7	85.4	9.9	4.7
	第11回（1997年）	77.9	15.3	6.8	71.5	23.3	5.2
	第12回（2002年）	**76.2**	**15.6**	**8.3**	**68.8**	**24.4**	**6.8**
h．少なくとも子どもが小さいうちは，母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい	第10回（1992年）	87.5	7.0	5.5	87.4	8.2	4.4
	第11回（1997年）	－	－	－	－	－	－
	第12回（2002年）	**76.4**	**15.8**	**7.9**	**77.1**	**16.7**	**6.2**
i．いったん結婚したら，性格の不一致くらいで別れるべきではない	第10回（1992年）	67.7	26.4	5.9	57.4	37.8	4.8
	第11回（1997年）	62.0	31.4	6.7	47.3	47.3	5.3
	第12回（2002年）	**66.4**	**25.7**	**7.9**	**52.8**	**40.4**	**6.8**

注：18歳～34歳の未婚者．「賛成」は「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」を合計した回答割合．「反対」についても同様．設問 h.は第11回調査ではたずねていない．標本数，第10回男性4,215，女性3,647，第11回男性3,982，女性3,612，第12回男性3,897，女性3,494．